



記 入 日 2014年 1月 17日

1. 概 要

実践団体名	アトリエ太陽の子		
連絡先	078-858-7301		
プランタイトル	絵画を通じた東北支援「命の一本桜」プロジェクト		
プランの対象者※1	幼児～大学生、教職員、保護者、地域住民	対象とする災害種別※2	1, 2, 3, 4

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

「心の手を繋ごう・東北に希望の春を届けたい」をキーワードに、兵庫県内の子ども達と東日本大震災被災地へ、『命の一本桜』（8×3.2m）等、絵画作品等をお送りし、心のエールを届ける。地域の子どもの心を育て、防災教育の中心『命』の大切さ、尊さを学ぶ。また、東北被災地の小学校等で出前授業を行う事で、被災地の子ども達の心のケアとなり、また阪神淡路大震災を経験した神戸の地域の子どもの心の交流となる。誰しものが親しみをもち愛する『桜』を皆で描く事で、また絵画が苦手な子ども達にも楽しんで描いてもらう楽しい技法で描く事で、皆で心を解放し、楽しみながら描く事が出来る。

また、『紙に描く』事から、大変軽量で小さく畳める事や、どこにでも展示しやすい事から、学校行事の展示にも大変汎用性が高い。

【プランの概要】

阪神淡路大震災を経験した神戸から東北に伺い、子どもの心のケアの為、復興の象徴・一本桜を幅8mの紙に全身を使って描く活動。目に見えぬ不安に脅かされている福島の子どもの達、なかなか街の復興が進まない宮城県・岩手県の子どもの達に、活動を実施普及し、入学式、卒業式、文化祭等、行事毎に展示する事で地域の活力に繋がっている。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

共同制作を行う事で、学年全体、学校全体で『1人では出来なくても、皆で協力し合う事で、成し得る事が出来る達成感』を体感してもらう。展示作品を御覧になる事で、地域の方々への活力へと繋がる



2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	一本桜プロジェクト 年間検討会	・4月の活動準備(訪問先との連絡) ・ワークショップ活動準備	4月6,7日岩手県大船渡市立綾里小学校『命の一本桜』お届け/大船渡中学仮設住宅と、宮城県気仙沼市立階上小訪問 4/12神戸にて『命の一本桜』
5 月		・『インターナショナルキッズデー』 打ち合わせ	5月25日神戸市六甲アイランド『インターナショナルキッズデー』様々な国籍の子ども達と『命の一本桜』
6 月		・加古川・打ち合わせ	
7 月	東北活動検討会	・鳩里幼稚園と打ち合わせ	7/9加古川市立鳩里幼稚園児101名と共に『命の一本桜』
8 月	八幡小から御依頼	・加古川研修会打ち合わせ	
9 月	東北の諸学校と打ち合わせ詳細	・10月東北での活動ワークショップの準備	9/3加古川市幼稚園人権教育研修会、先生方110名対象に絵画を通じた東北支援活動の報告講演 9/15ひょうご環境体験館、命の一本桜講演と、ワークショップ
10 月	・災害メモリアル KOBE2014への 公開授業の御依頼	・加古川市八幡小学校での 命の一本桜打ち合わせ ・阪神南ふれあいフェスティバル・東北支援活動ブース出展決定。準備	10/9~18・東北被災地での活動/宮城県階上小、階上中、面瀬小、釜石市立栗林小学校に『虹の横断幕』お届け/岩手県大船渡小ご挨拶、大船渡中学仮設住宅集会所、気仙沼市面瀬ふれあいセンターにて『干支の色紙絵』描こう会/石巻市立雄勝小学校全児童36名、福島県いわき市立平第四小学校6年生71名と共に『命の一本桜』プロジェクト/福島県いわき市立久ノ浜第一小、被災報告お伺い。
11 月		・1.17のつどい。企画 案提出 ・災害メモリアル KOBE2014。打ち合わせ	11/2,3 阪神南 県民ふれあいフェスティバル出展。命の一本桜実施 11/13 加古川市立八幡小学校全校生徒、卒業生等320名以上での命の一本桜プロジェクト
12 月		・1.17のつどい大船渡 から御招待企画が内定。	12/6 神戸市立福池小にて命の一本桜(1.17と3.11当時の映像を鑑賞後、被災地の現状を語り聞かせ、制作)
1 月			1/11 災害メモリアル KOBE パネリストとして参加 1/12 ぼうさい甲子園表彰式『継続こそ力』賞・兵庫県庁主催防災ポスター表彰式『知事賞』『防災センター長賞』『佳作』『入選』11名受賞 1/16 1・17のつどいに大船渡市より御招待。交流会開催。
2 月			
3 月			東北支援活動報告会に参加予定 (水墨画 F120号 東日本大震災をテーマに描いた『忘れないで』も展示予定)

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	インターナショナルキッズデイ・命の一本桜プロジェクト
実施月日（曜日）	5月25日（土）
実施場所	神戸市東灘区・六甲アイランド 神戸ファッションマート
担当者または講師	担当者・講師等の区分：企画・指導 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰代表
所要時間「コマ数×単位時間」	2コマ×1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1, 2
活動目的※5	8, 10
達成目標	・参加者が地震や津波の恐ろしさを認識し、命の尊さを学ぶ。 ・東北被災地の学校にお届けする一本桜作品の完成。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1. 導入…様々な国籍の子ども達が参加している為、日本語と英語で、阪神淡路大震災の事、東日本大震災の事をお話。そしてなぜ一本桜を描くのかを説明。 2. 制作開始 クレパスにて草原や木の幹の描写/水彩絵の具による花のスタッピング/全員で、作品と共に記念撮影
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材…導入説明、指導（中嶋）、制作補助スタッフ（5名） ・道具…ブルーシート、制作用紙（8m×3.2m×2枚）、クレパス（150箱）、絵の具、水入れ、筆、紙皿、展示資料（一本桜の主旨を、日本語と英語で。）
参加人数	250人（1回目150人、2回目100人）
経費の総額・内訳概要	総額70447円（材料費55477円+人件費15000円）
成果と課題	【成果】六甲アイランドを中心に、様々な国際学校の子ども達が参加してくれた事で、神戸市内に住む、外国の子ども達にも阪神淡路大震災の事を語り聞かせ、共に東北に思い馳せる事が出来た。日本の子どもも外国の子どもも、「神戸に住む子ども達」として1つになり、命の尊さを考える良い機会となり、『一本桜』を完成する事が出来た。 【課題】今回自由参加だった為、今回限りの参加の子ども達とのその後の繋がりが出来ていなかった。
成果物	朝日新聞、神戸新聞、掲載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	加古川市立鳩里幼稚園『命の一本桜』プロジェクト
実施月日（曜日）	7月9日（火）
実施場所	鳩里幼稚園体育館〒675-0032 兵庫県加古川市加古川町備後170
担当者または講師	担当者・講師等の区分：企画・指導 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間半授業 1コマ
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 1
活動目的※5	8, 10、
達成目標	・災害時、親が我が身を挺して子を守った話など、親子の愛を伝える。 ・東北被災地の学校にお届けする一本桜作品の完成。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 導入…阪神淡路大震災の事、東日本大震災の事をお話。そしてなぜ一本桜を描くのかを説明。 2. 制作開始 クレパスにて草原や木の幹の描写／水彩絵の具による花のスタンプ／全員で、作品と共に記念撮影
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材…導入説明、指導（中嶋）、制作補助スタッフ（アトリエ太陽の子3名、幼稚園の先生方） ・道具…ブルーシート、制作用紙（8m×3.2m×2枚）、クレパス（120箱）、絵の具、水入れ、筆、紙皿、展示資料（一本桜の主旨を、日本語と英語で。）
参加人数	園児101名
経費の総額・内訳概要	総額 61447 円 （材料費 46447 円＋人件費 15000 円）
成果と課題	【成果】幼稚園の小さな子ども達に地震と津波の恐ろしさ。そして命の尊さを学ぶキッカケとなりました。 【課題】今回は、幼稚園の先生方、保護者の方々が授業のお手伝いをしてくださったので、100名以上もの園児でしたが、やはり人手が多いとスムーズに授業を進める事が出来ました。
成果物	毎日新聞、神戸新聞にて掲載して頂きました。地元TV『バンバン』

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	加古川市立幼稚園人権教育研究会『命の一本桜』報告発表
実施月日（曜日）	9月3日（火）
実施場所	加古川市勤労会館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×1.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、3、
活動目的※5	8、9、10
達成目標	加古川市内の幼稚園の園長先生はじめ、職員の先生方を対象に、東日本大震災の現状、被災地の子ども達の状況の報告。子ども達に『命の尊さ』伝える為に、どのような授業が心に響くかという事を伝える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 加古川市の幼稚園人権教育研修会の一環として、講師として講演の御依頼をお受け致しました。絵画を通じた東北支援活動の報告と、どのような形で、子ども達に命の授業を行ってきたのかという内容。 2. 東北の子ども達に向けての神戸の子ども達の取り組みや、東北現地での被災地の状況を、映像や写真スライド等を交えて報告。 3. 聴講の先生方は皆さん真剣に、涙ながらに聞いてくださる方も。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材…会場内に子ども達が描いた『震災の絵』『防災ポスター』や『命の一本桜プロジェクト』など絵画を通じた東北支援活動の活動パネルの展示や、講演中のパソコン操作、記録（アトリエ太陽の子3名） ・道具…プロジェクター、パソコン等
参加人数	110名
経費の総額・内訳概要	総額 27000円（展示材料 6000円＋交通費 6000円＋人件費 15000円）
成果と課題	【成果】多くの先生方が涙ながらに聞いてくださり、今後の幼稚園指導、教育の中で生かして行きたい。と仰って頂きました。日々の暮らしへの感謝の気持ち。命の尊さを小さな子ども達にどう伝えるべきかを、しっかりと受けとめてくださいました。 【課題】命の一本桜プロジェクトの御依頼や、アトリエからパッケージ化の提案をさせて頂きました。まずは今後、加古川の先生方とも相談しながら、パッケージ化を進めて行きたいと思っております。
成果物	毎日新聞

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： _____】 ※3

タイトル	福島県いわき市立平第四小学校での『命の一本桜』プロジェクト
実施月日（曜日）	10月17日
実施場所	福島県いわき市立平第四小学校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 企画・指導 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×1時間半（3時限、4時限目）
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 1
活動目的※5	8, 10
達成目標	福島県いわき市は、原発避難区域（楡葉、富岡、双葉、浪江、南相馬、大熊等）の方々が一番多く避難して来られている地域です。故郷を追われた子ども達。また受け入れ側のいわき市の子ども達。皆、個々それぞれに違いますが、3.11以降の生活は一変しています。ただ共通にある「目に見えない不安」（放射能）によるストレスを抱えている子ども達に、思いっきり心を解放してもらう事。また私達が「福島」を支えていくんだという強い心、連帯感を持ってもらいたいとの思いから、授業を行いました。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 導入…1.17の事を伝え、私も辛かった。泣いた。だからこそ3.11は人ごとではなかった神戸の間人は皆、泣いた事を伝えた。そしてなぜ一本桜を描くのかを説明 2. 制作開始 クレパスにて草原や木の幹の描写/水彩絵の具による花のスタッピング/全員で、作品と共に記念撮影
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材…導入説明、指導（中嶋）、制作補助スタッフ（アトリエ太陽の子3名、校長先生、教頭先生、6年の担任の先生方、PTAの方々） ・道具…制作用紙（8m×3.2m×2枚）、クレパス（100箱）、絵の具、水入れ、筆、紙皿、展示資料（ブルーシートは学校側が用意してくださいました。）
参加人数	6年生全生徒71名+先生方、PTAの方々、元PTA役員、いわき市内の中学高校のPTA会長の方々
経費の総額・内訳概要	総額45616円（材料費30616円+人件費15000円）
成果と課題	【成果】阪神淡路大震災に対する理解。また『今ある命は当たり前ではない。一生懸命生きなくてならない』という気付きが、一番強く感じられた授業でした。→皆、色々と言葉を手を吹き込み、ゆっくりと手形を押す姿。また閉会式では、10名以上もの子ども達がお礼の言葉や、授業の感想発言が、後を絶ちませんでした。 【課題】
成果物	毎日新聞、福島民報、福島民友、いわき民報、日々の新聞

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	災害メモリアルKOB E 2014 公開授業『命の一本桜』プロジェクト
実施月日（曜日）	12月6日、1月11日
実施場所	神戸市立福池小学校（12月6日） 人と防災未来センター（1月11日）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：指導（12月6日）パネリスト（1月11日） 氏 名： 中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×1時間半（5時限、6時限）
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 1
活動目的※5	8, 1 1
達成目標	阪神淡路大震災の語り継ぎ。阪神淡路大震災から19年。震災を経験していない子ども達への語り継ぎ。東日本大震災への関心。震災を経験した神戸の子ども達だかこその継続した支援。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	12月6日（公開授業）…1. 導入…1.17と3.11の当時の映像を観た後に語り聞かせ。そしてなぜ一本桜を描くのかを説明。2. 制作開始 クレパスにて草原や木の幹の描写/水彩絵の具による花のスタッピング/全員で、作品と共に記念撮影 1月11日（災害メモリアルKOB E）…福池小学校での1本桜を会場に3点とも展示。「伝えること。伝えるひと」をテーマに、パネルディスカッション。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材…導入説明、指導（中嶋）、制作補助スタッフ（アトリエ太陽の子3名） ・道具…ブルーシート、制作用紙（8m×3.2m×3枚）、クレパス（200箱）、絵の具、水入れ、筆、紙皿、展示資料（ブルーシートは学校側が用意してくださいました。）
参加人数	福池小学校6年生 約160名
経費の総額・内訳概要	総額37278円（材料費22278円+人件費15000円）
成果と課題	【成果】体育館の巨大スクリーンにて、音と共に震災当時の映像（1.17と3.11）を観る事で、子ども達も災害の恐ろしさ、規模の大きさをしっかりと感じる事が出来ました。 【課題】
成果物	朝日新聞、産経新聞、読売新聞、毎日放送

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】 ※3

タイトル	防災力強化県民運動ポスターコンクール 出品
実施月日（曜日）	10月の授業、週一回（合計4回授業にて）
実施場所	アトリエ太陽の子 各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：指導教師 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	4コマ×2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	5
活動目的※5	1, 2, 3, 6, 8
達成目標	防災知識、関心向上の為。時間を掛けて描く事で描きながら反芻する事が出来る。各家庭に持ち帰り、家族での防災会議、意識の向上。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	1. 導入…1. 17、3. 11 当時の災害映像を鑑賞した後、語り継ぎ。防災講座。（地震、津波、豪雨水害等、災害の特徴と、対策、防災知識） 2. 描画…ポスターとして伝わりやすい構図を考え、鉛筆で下描きした後、ペン描きし、クレパスや絵の具で着彩 3. 標語を考える…より効果的に伝わりやすいように、ゴシックで書きこんだり、影を入れて立体文字や、囲み文字にして強調。
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	人材…導入、指導（中嶋）アトリエ太陽の子指導スタッフ（3人～6人、曜日や教室の規模によって人数は変動。） 道具、材料等…鉛筆、消しゴム、クレパス、絵の具、ジェッソ
参加人数	およそ300人（アトリエ太陽の子に通う、小中学生…幼稚園を除く。）
経費の総額・内訳概要	授業内の制作の為、経費は計上致しません。
成果と課題	【成果】防災ポスター制作は、平成16年より継続して8年間連続で行っております。絵画を通じて子ども達の防災知識、関心の向上。神戸の子どもとしての使命感が強くなりました。 【課題】
成果物	ポスターコンクールでは、見事、第一位 知事賞、第2位 防災文化長賞、第3位 佳作、第4位 入選、全て受賞。合計11名の子ども達が受賞。 神戸新聞に受賞結果掲載。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	1. 17のつどい
実施月日（曜日）	1月16日、17日、18日
実施場所	神戸市東遊園地にて
担当者または講師	担当者・講師等の区分：団体責任者 氏 名：中嶋 洋子 所属・役職等：アトリエ太陽の子 主宰・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1月16日 AM11:00～PM8:00、17日 AM4:00～PM7:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	1、2、3、
活動目的※5	6、8、10
達成目標	阪神淡路大震災から19年。神戸市で震災を知らない人が人口4割を超えた今、つどいに子ども達の参加を呼び掛ける。東日本大震災被災地から中学生を招き、神戸の子ども達と1.17、3.11への理解を深め交流をする。東北の中学生に、神戸の被災状況と、復興への歩み、努力や苦労や知恵を学んでもらい、復興への希望を持ってもらう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・東北支援活動で2011年から交流の続いている大船渡小学校元校長・柏崎先生と卒業生の女子2名（現在中1.2）を神戸にお招き。 ・16日、つどいテント展示搬入（アトリエ太陽の子の子ども達が描いた「震災の絵」、命の一本桜、いわき市市立平第四小の子ども達が書いた一本桜感想文、大船渡復興状況写真掲示 etc） ・1月16日、17日、『1.17のつどい』会場にて交流会（大船渡の三方に震災当時の事、現在の様子、アトリエとの繋がりをお話し頂く。） ・1月17日 明朝5:46、竹灯籠の元、アトリエ太陽の子の子ども達と共に黙祷。・アトリエのテントにて命の一本桜ワークショップ。 ・1月17日 昼2:46、3.11の竹灯籠の元、黙祷 ・1月18日、大船渡の三方を人と防災未来センターに案内。その後、アトリエ太陽の子の教室にて子ども達と交流会。異人館とハーバーランドにて、山からと海から、復興した神戸の街並みを見てもらう。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材…テント搬入展示（アトリエ太陽の子4名、保護者1名） 交流会やつどいの準備や受付スタッフ（アトリエ太陽の子5名） 道具、材料…展示作品、展示備品（ひも、テープ等）、絵の具、筆 etc、交流会の為にスライド映像用のテレビ、パソコン
参加人数	交流会…150名（16日）+120名（17日）（1.17のつどい全体では4000人の来場者ですので、大変多くの方々に展示作品や、一本桜ワークショップに御参加頂いています。）
経費の総額・内訳概要	総額 45616円（材料費 15616円+人件費 30000円）
成果と課題	<p>【成果】東北の子ども達に、被災と復興を経験した神戸の街を見てもらい、神戸の人達の声を聞いてもらう事が出来た。新聞やテレビからだけでなく、実際に東北の被災状況、心情、そして現在を現地の方の言葉で、神戸の私達は聞き、理解を深める事が出来た。</p> <p>【課題】被災地からお招きする企画を継続して行っていきたい。</p>
成果物	朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、神戸新聞、岩手日報、東海新報、朝日小学生新聞、朝日中学生ウィークリー

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてお伺いする各学校との日程調節等に、苦勞致しました。 ・突然の御依頼等が多くありましたので、短期間でのプラン調節、日程調節などが多かった事も苦勞致しました。 ・その上で工夫した点は、『命の一本桜』プロジェクトの、過去実績の報告書や掲載新聞等をお送りし、準備に向けての理解を深めて頂いた。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に、阪神淡路大震災や、東日本大震災をしっかりと視覚、聴覚含めて理解を深めてもらいたい。災害の恐ろしさを伝えたい。そして、学んでいく中で「今ある命を大切にしなければならぬ」「尊いたった1つの命」という事を、しっかりと子ども達に伝えたい為に、語り聞かせる話だけでなく、映像と音から読み取る、災害の恐怖、リアリティを子ども達に伝える為、映像の準備、映像映写の準備等、また展示物の準備に苦勞しました。 ・東北被災地では、津波の映像はもちろん見せていません。ただ、神戸で19年前に阪神淡路大震災があったという事、あの時に悔しい思い、悲しい思いをいっぱいしたという事、私の場合は教え子を亡くしたという事を伝えていきます。そう伝える事で、被災地の子ども達にとっては、「よそ者」ではなく、「辛い経験をした。ぼく達の気持ちがわかってくれる」近い立場に立てます。その共感の思いから、子ども達と寄り添い、心通わせ、制作出来る様にしています。 ・授業最初の導入（1.17と3.11のお話し）等を行う際、授業の行く先々で対象である子ども達の立場が違う為、（被災地で、初めて会う子ども達。被災地で何度も会って来た子ども達。兵庫県内の子ども達。幼稚園。小学校全生徒。6年生の卒業記念制作の為…等。）語り掛ける言葉の選び方など、その都度 導入原稿を変更しなくてはならなかった…が苦勞と工夫した点です。 ・『命の一本桜』制作用紙が、3.2m×8mと大変大きい為、ロール模造紙を繋ぎ合わせて準備しています。繋ぎ合わせる為には、広い部屋で、また時間もかかるため、急な御依頼等の出張授業の時は、準備の時間確保と、広い制作場所の確保に苦勞しました。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波の映像を見せてから、災害の恐怖や残酷さを語ります。いざ、直面した場合を想像してもらいます。その時など、年齢の小さな子ども達への配慮等もとても大切です。 ・映像と語り伝えで、とにかく「災害の恐ろしさ」をしっかりと認識してもらおう事は、「しっかりと、死とは、どういう事か」という事を考える事に繋がり、それは「生きる」とは「今ある命は当たり前では無いという事」について、深く考える機会になります。その事をしっかりと胸に踏まえた上で、『命の一本桜』を描かなくてはならないので、しっかりと導入の時間はとらなくてはなりません。様々な諸事情により時間が押した場合でも、この導入の時間は避けられません。 ・やはり大作の制作授業ですので、授業の進行には、人手が入ります。学校等では、学校の担任の先生方に御協力して頂き、（又、PTAの方々と）無事に進める事が出来ました。 ・『命の一本桜』制作後は、作品の修正、学校名の記入、ナンバリングなどの作業が必要。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> ・加古川市立鳩里幼稚園 ・加古川市立八幡小学校 ・加古川市立氷丘南幼稚園 ・神戸市立福池小学校 ・宮城県気仙沼市立階上小学校 ・宮城県気仙沼市立面瀬小学校 ・宮城県石巻市立雄勝小学校 ・岩手県大船渡市立大船渡中学校 ・岩手県釜石市立栗林小学校 ・福島県いわき市立平第四小学校 ・福島県いわき市立久ノ浜第一小学校 ・福島県檜葉町立檜葉北小、檜葉南小学校 ・福島県立双葉高校 ・いわき明星大学 	<p>命の一本桜実施校。 その後も、東北の小学校等にお繋ぎし、支援の御縁が続いています。</p> <p>命の一本桜実施校。(東北) その後も、御縁がずっと続いています。</p> <p>大船渡中生を1.17のつどいにお招きする際、送り出しの許可、公欠手続きなど。 サクラプロジェクトで御縁のある、元大槌小学校の校長先生が、現在着任されている為。</p> <p>いわき市での一本桜実施校と、今後予定している実施予定校。</p>
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> ・アトリエ太陽の子保護者の方々 ・いわき市立平第四小学校 PTA 	東北支援活動を応援 平四小での一本桜プロジェクトサポート
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県気仙沼市面瀬地域ふれあいセンター ・岩手県大船渡市立大船渡中学校仮設住宅集会所 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅にお住まいの方への絵画出張授業『干支の色紙絵』描こう会開催
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県庁防災課 ・公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 ・ひょうご安全の日推進県民会議 ・神戸市役所『1.17のつどい』実行委員会 ・ひょうご環境体験館 ・岩手県大船渡市立中央公民館 ・いわき市立美術館 	<p>防災ポスター、ぼうさい甲子園、命の一本桜プロジェクト等で。</p> <p>「1.17のつどい」にて 命の一本桜プロジェクトにて</p>
企業・ 産業関連の組合等	<ul style="list-style-type: none"> ・(株) サクラクレパス 	東北被災地にお届けする画材の値引きを継続していただいています。
ボランティア団体・ NPO法人・NGO等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災活動推進団体 with 	
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ろっこう医療生活協同組合 	



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が本当に素直に取り組みに参加してくれました。どの学校でも導入をしっかりと聞いてくれました。兵庫県内、東北の小学校、どちらも『命の一本桜』授業後に、子ども達の感想文や、御礼のお手紙が多く寄せられました。どの作文からも、『今ある命が当たり前ではないという事』を、その子、その子の言葉で、その子なりに、しっかりと受け止めてくれていた事が伝わって参りました事が、大きな成果です。 どの学校でも、完成した時の一本桜の表現が全く違います。やはり、東北の小学校で描かれる一本桜は、根っこがとても多く、しっかりと大地をつかんでいます。そして、多くの子ども達が大きな達成感得てくれた事が、大きな成果です。 子ども達だけでなく、特に東北では、担任の先生方が、とても喜んでくださり、活動の主旨に大変共感してくださり、感謝して下さった事、子ども達と共に満開の笑顔で活動を終える事が出来ました。 一本桜制作後も、実際に学習発表会や、終業式、卒業式、入学式等で、展示活用して下さっています。地域でもとても評判になっています。 1時間余りで50人～400人まで一気に授業が行える『命の一本桜』です。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 被災地外での授業について…地元兵庫では、阪神淡路大震災から19年目。人口の4割が震災を知りません。学校でも、教師に立つ立場の先生方の世代も変わっていき、だんだん震災の記憶が薄い世代になり、いずれ経験していない世代になっていきます。その中で、いかに「風化」させず伝えていくかという事は、大変大きな課題となっています。一本桜プロジェクトは、震災や災害の恐ろしさを語り伝えた後に、受けてである子ども達が、語り聞きだけでなく、絵を描くという『表現行為』を通じて、その活動の時間の中で、思いを反芻させる事が出来、思いを深めて行く事が出来る事が大きなポイントです。今後、この活動を長く続けていく為に、パッケージ化を進めて行かなくてはなりません。その時に『描く行為』ではなく、『語り伝える』事が、とても重要だという事をしっかりと形にしていかななくてはならないと思っています。これが今後の課題です。 被災地での授業について…今後も御要望を頂く限り、継続して子ども達の心のケアの為、続けていきたいと思っています。震災から2年以上たつて、子ども達の「心のケア」の部分も変わってきています。個人差もとても出てきています。ただ、本来「全身を使って描く」という行為は、絵の得意な子ども達もそうでない子ども達も、すつと入っていく事が出来る技法であり、また協調性が生まれる授業スタイルは、成功だったと思っています。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東北に本物の桜が咲き誇り、子ども達がお腹の底から笑顔になれる日まで継続していきたいと思っています。 現在は、宮城県気仙沼市や、岩手県大船渡市に加え、福島県いわき市と郡山市の学校等から、御依頼をお受けしております。3年目に向けて、時はどんどん過ぎていますが、未だに不安な、将来の見えてきにくい「福島」の現状。「命の一本桜」プロジェクトを通じて、子ども達の心のケアの為の活動を係属していきたいと思っています。 <p><今年の予定校> 岩手県…大船渡市立綾里小学校 宮城県…階上小学校、福島県…久ノ浜第一小学校、平第四小学校、檜葉北小学校、檜葉南小学校、双葉第一幼稚園</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

2013年10月17日 福島県いわき市立平第四小学校にて「命の一本桜」プロジェクト

平四小の、6年生全生徒72名による『命の一本桜』プロジェクト。いわき市には、楢葉町や富岡町、双葉町…と立ち入り禁止区域指定の方々が、一番多く非難されてきています。平四小にも沢山の転入生がおりました。福島が抱える深い深い震災後の問題…。常に抱える「不安」。だからこそ、いわき子ども達に思いきり『命の一本桜』を描いて欲しいと思っておりました。授業前には、私自身、18年前の阪神淡路大震災を経験し、悔しく悲しく辛い思いを沢山した事、いっぱい泣いた事、だからこそ東日本大震災は他人事ではなかった事…お話し致しました。子ども達も目を潤ませ真剣に聞いてくれまして、保護者の方々も涙ながらに聞いてくださいました。72人の心が1つになり、子ども達の笑顔と共に、満開の『一本桜』が咲き誇りました！



『命の一本桜』プロジェクト制作を終え、閉会式の折には、子ども達から自主的に手が上がり、思い思いに制作の感想や、感謝の言葉をいっぱい発表してくれました！！それぞれに子ども達の言葉で「命の大切さ、今生きてる事が、当たり前じゃないんだって事を、すごく感じました。」「手形でサクラの花を押すときに、有難う！って気持ちを込めて押しました。」など発表の手がどんどん上がり…子ども達の心に、この授業が確かに響いたのだと、実感しました子ども達の笑顔は被災地の原動力。芸術の可能性を信じ、これからも神戸と東北の懸け橋となる事を改めて実感しました。



(自由記述: 1/3)

2013年12月6日 神戸市立福池小学校「命の一本桜」プロジェクト

災害メモリアル KOBE2014 の公開授業の御依頼をお受け致しまして、神戸市立福池小学校 6 年生全生徒に『命の一本桜』授業を行う事になりました。体育館巨大スクリーンにて阪神淡路大震災当時の映像、そして 3.11 の津波の映像を観てもらってから、震災の惨事、そして命の尊さについて、切々と語り伝えました。子ども達はしっかりと思いを胸に、祈りを込めながら、東北に思いを馳せながら、サクラ色の絵の具を塗った手形を押し当てていってもらいました。3 枚の命の一本桜が満開に咲き誇りました。

**2014年1月11日** 災害メモリアル KOBE 2014

会場、人と防災未来センターにて、福池小学校の子ども達が描いた 3 枚の命の一本桜が堂々と展示されました。災害メモリアル KOBE では、福池小学校の 6 年生の子ども達、10 数名が、命の一本桜プロジェクトを受けての感想文発表が行われた。この時の作文からも子ども達から、「命の尊さ」「今ある命は当たり前ではない。一生懸命に生きる事が一番大事」という事を発表してくれた子ども達が多かったです。「心を込めてみんなで力を合わせたからこそ、力強く立派なサクラが出来たんだと思う。」と多くの子ども達が達成感を持っていました。



パネルディスカッションでは、「伝えるひと、伝えること」をテーマに、小学校の公開授業を行った、私くし中嶋と、中学校の公開授業を行った読売新聞社大阪本社森川次長様。また「伝えられていった次世代」として、アトリエ太陽の子の教え子で、東北ボランティア活動をしている神戸大学医学部生と、読売新聞社の記者の方が登壇。震災を経験していない世代に、伝えていく意義や、伝え方について話し合い、19 年経っても変わらない「命の尊さ」についての普遍性を、また防災を通じて「人間力」を高める事の大切さを改めて痛感しました。

(自由記述: 2/3)



2014年1月16、17、18日 阪神淡路大震災追悼行事「1. 17のつどい」



阪神淡路大震災から19年目。神戸市主催の『1. 17のつどい』では、竹灯籠が1. 17の文字をかたどり、明朝5時46分に、皆で黙禱を行い、犠牲になられた6434名の方々の御冥福をお祈りしています。

2011年4月、避難所で出会った当時小学生だった女兒2名。被災と復興を経験した神戸の街を見てもらいたく、また、この神戸が誇る追悼行事『1. 17のつどい』に参加して、被災から19年目の神戸の在り方、神戸の方々の声に触れてもらいたくお招きしました。また、次世代に繋いで行く為、アトリエ太陽の子では、子ども達に、このつどいの参加を呼び掛けています。1. 17当日の5時46分にも多くの子ども達が駆けつけてくれました。アトリエ太陽の子の子ども達の思いと、その思いに動かされ、協力して下さった保護者のお母様方と共に阪神淡路大震災を語り継いでいこうと決意を新たにしました。アトリエ太陽の子テントでは、『命の一本桜』プロジェクトを行い、御来場の方々と共に、祈りを込めて咲かせていきました。

前日、1月16日のお昼に大船渡から神戸入りして頂き、1月16日の夜と、1月17日のお昼に「1. 17、3. 11交流会」を開催しました。大船渡小学校元校長・柏崎先生と避難所で出会った、及川さん、森田さん（現在中学生）に震災当時の事、その後の歩み、アトリエ太陽の子との繋がり、そして現在の大船渡、神戸の方への感謝の気持ちとメッセージを伝えて頂きました。



「風化を防ぐ」為には、1. 17と3. 11、それぞれに、熱く思う人達が集い、繋がっていく



事が、一番大切だと感じています。「大船渡の復興はまだです。わすれないでください。」とのメッセージには、御来場されていた多くの方々が、「ハッ」とさせられると同時に、被災と復興を経験してきた神戸だからこそ、分かり合える事が出来ると感じています。翌日18日には、人と防災未来センターにいて、神戸の歩みを学習して頂き、アトリエ太陽の子にて、子ども達との交流会も行い、東北と神戸の絆を再確認しました。



(自由記述: 3/3)